



たけたん すまいる ブリッジ プロジェクト

竹田市架け橋プログラム推進事業

文部科学省委託

幼保小の架け橋プログラムに係る調査研究事業 実施報告

令和7年2月 竹田市教育委員会

はじめに

竹田市の施策の目玉のひとつは、子育て支援拡充の実施と生み育てる環境の充実です。

少子高齢化の中、子どもの健やかな成長に最適な環境を物心両面からサポートし、子育てしやすく、子どもがすくすくと育っていくことを目標としています。

この生涯にわたる学びや生活の基盤を創る重要な時期に、幼保小の教職員が情報を共有し、協働して学びを深める取組を進めることによって、子どもに関わる大人が立場の違いを超えて連携・協働し、架け橋期に相応しいカリキュラムを策定し、改善していくことを目指してきました。

※文中における「子供」の表記は、竹田市において「子ども」に統一しているため、以降の全て「子ども」と記載しています。

報告書概要

1. 研究概要
2. 竹田市架け橋期のカリキュラム
3. カリキュラム実施に向けて
4. 年間指導計画
5. 幼保こ小合同研修会
6. 遊びや学びのプロセス
7. 幼小連携・交流活動
8. 地域・家庭との連携

研究概要

◎幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きを元に対話の重視・協働して学びを深める

○保育参観・授業参観 → 合同研修会・ワークショップ

○保育・授業実践の見える化

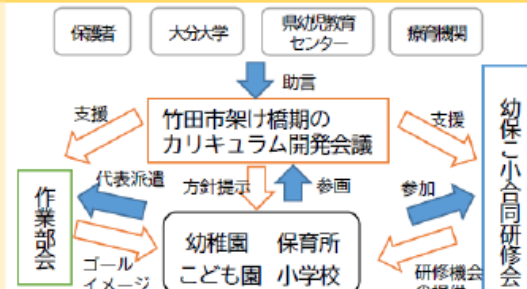
竹田市「幼保小の円滑な接続」推進事業（幼保小の架け橋プログラム）

【幼保小の円滑な連携の必要性】

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が策定されたが、具体的なカリキュラムの工夫や教育方法の改善あるいは幼保小の連携の手がかりとして十分機能していない。
- ・スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムがバラバラに策定され、理念が共通していない。連携が行事の交流等にとどまっている。

【文科省「幼保小の架け橋プログラム」への参加】

- ・R3年度「公立小学校教諭等幼児教育施設訪問研修」の成果の活用
- ・竹田市架け橋期のカリキュラム開発会議の設置
(教職員 有識者 保護者 市関係者等で構成)
- ・共有された理念による架け橋期のカリキュラム等の作成
- ・連携の充実（幼保小合同研修会 子どもの交流等）



事業推進のイメージ

1年目（令和4年度）

2年目（令和5年度）

3年目（令和6年度）

フェーズ1

基盤づくり

フェーズ2

検討・開発

フェーズ3

実施・検証

フェーズ4

改善・発展サイクルの定着

カリキュラム
開発会議

準備
* 構成員の選定と目指す方向性の共有
* 地域の実態の把握

検討・開発
* 方針の検討・決定、開発への支援
* 国による架け橋期の教育の質保障の枠組みとの連携開始

実施の検証
* 実施状況の把握・検証と支援
* 国による架け橋期の教育の質保障の枠組みとの連携推進

持続的・発展的な開発会議の運営
方針の改善・発展と支援
* 方針の改善・発展と支援
* 国による架け橋期の教育の質保障の枠組みとの連携強化

園・小学校

接続を見通した教育課程編成・指導計画の作成
* 園・小学校での活動の共有
* 子どもの交流

架け橋期のカリキュラムの検討・開発
* 共通の視点をもとに内容の検討・開発
* 人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の共通性の理解
* 子どもの交流の推進

架け橋期のカリキュラムの実施・検証
* 園・小学校において教育課程編成・指導計画作成、実施、検証
* 人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用
* 子どもの交流の充実

持続的・発展的な架け橋期のカリキュラム
* 持続的・発展的な架け橋期のカリキュラム
* 人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用
* 持続的・発展的な子どもの交流実施

市
学校教育課
社会福祉課

連携強化への支援
* 研修の実施（幼保小合同研修 先進地視察等）
* 関係部局との連携
* 関係機関・関係団体との連携

幼保小の協働実施の支援
* 研修の充実、研修教材の活用
* 実施上のニーズの把握と支援
* 園・小学校と関係機関・関係団体との連携のコーディネート

持続的・発展的な取組を支える支援の定着
* 研修の改善・発展、研修教材の改善・発展
* 必要な支援策の改善・発展
* 園・小学校と関係機関・関係団体との連携のコーディネートの改善・発展

たけたんスマイルブリッジプロジェクト
こども家庭センターと学校教育課の協働による架け橋期の子どもの発達支援事業

Ver. 4

◎重点目標：○情報活用能力 ○協働的な学び ○自分の考えを形成する力 ○主体的に学び続ける意欲

小学校 1 年生

主体的に自己を発揮しながら課題の解決に向けて取り組む

国語	算数	音楽	図画工作	体育	道徳	特別活動
----	----	----	------	----	----	------

生活科

くわくときどき
うがこう) ⑥
校、家庭及び地域
に関する内容
学校と生活
生活と出来事の伝
え

健康な心と体
会生活とのかか
り

個性・規範意識の
え

業による伝え
合

安心をつくる時間
・弾力的な時間の運用

⇒生活科を中心とした学習活動
合科的・関連的学習活動
(例: 国の中の太字の教科等)
⇒教科等学習活動

大さくせん) ⑩
学校・家庭及び地
域の生活に関する内
容

②) 家庭と生活
③) 生活と出来事
の伝え合い
④) 生活と出来事
の伝え合い
⑤) 生活と出来事
の伝え合い

☆自立心
☆社会生活とのか
かり
☆健康な心と体
持た

【なかよくならうね
かどむら) ⑧
身近な人々、社会お
よび自然とのかかわ
り活動】

【きせつとなかよし
あそび) ⑨
身近な人々、社会お
よび自然とのかかわ
り活動】

【きせつとなかよし
あそび) ⑨
身近な人々、社会お
よび自然とのかかわ
り活動】

[illegible]

への環境構成→共通しをもってできる・視覚的に理解できる・描画的に学べる
カリキュラム」の時期は安心して学習がスタートできるように、音楽や読み聞かせ等を1時間目に行う
支援→ペア・グループ・学級・学校全体へ ◇体験活動を取り入れる
合わせ方、児童の意識の流れ、振り返りを大切にしたい指導計画
うして？」「どう思う？」「どうしたらいいと思う？」など経験の想起・思考を促し、交流し合う言葉かけを行う

【1学期】幼小交流活動事前・事後の打ち合わせ／互見保育・授業／

幼児教育と小学校教育のつながりや「架け橋期のカリキュラム」等についての理解の促進（保護者会、入園・入学説明会、学校運営協議会、通信、HPなどで）
 幼「遊びや学びのプロセス」【幼小学びのつながりシート】等発行（学期ごとに園保護者・学校・地域の園等へ）小「架け橋期の取組」【幼小の交流】【幼小合同研修会】等についてHPや通信で周知

竹田市こども「せいかつTOP10」(幼児版)の活用

体力づくりプログラム（「たけたん体操」の普及）

3. カリキュラムの実施に向けて 1 年目

○作業部会設置

- ・作業部会1：カリキュラム作成→モデル園・校
- ・作業部会2：体づくり→モデル園

○開発会議設置：保護者、大学教授、幼児教育センターなど

○合同研修会：市内4ブロックにて全員参加の研修会

- ・幼小の連携と接続、架け橋プログラムの理解
- ・「架け橋期に期待する子ども像」について

全教職員のアンケートを基に、竹田市の教育ビジョンに照らし合わせ、「期待する子ども像」について、開発会議の議論を経て、設定。

◎考えをもち表現する子

◎伝え合い認め合う子

◎探究心をもち、粘り強く取り組む子

3. カリキュラムの実施に向けて 2年目

○カリキュラム案作成：モデル園・校にて実践

○5月：小学校1年部会：スタートカリキュラムの検討

○6月：モデル校 小学1年生授業公開 「きれいにさいてねわたしの花」

- ・モデル園・校および各園、各校代表者参加の合同研修会
- ・カリキュラム案提案

○市内4ブロックにて幼保こ小合同研修会：参観と協議、研修

○11月：モデル園保育参観「秋のお店屋さんごっこ」

- ・モデル園・校および各園、各校代表者参加の合同研修会

○市内2園、5校において作業療法士派遣による体づくり

- ・モデル園・校はカリキュラムの検証
- ・モデル園・モデル校の実践を基に、全園、全小学校でのカリキュラム作成

3. カリキュラムの実施に向けて 3年目

○市内4ブロックにおいて年2回の合同研修会の実施提案

→小学校区を中心に7ブロックにおいて合同研修会の実施

○モデル校、モデル園において自主的に保育および授業公開研究会

○保育園・幼稚園の交流活動：保育参観、ワークショップ

○作業療法士による体づくりの取組：9園、6校

○啓発：市報（4月）、市長による全園保育参観

- ・各校の架け橋担当による交流及び参観の日程調整
- ・各園・校による自立した研修計画の実施
- ・幼稚園に接続する保育園との交流の開始
- ・竹田市幼児教育アドバイザーによるファシリテート

スタートカリキュラム

育みたい資質能力

- ものの性質・仕組みなどを感じ取りたり気づいたりする。(知・技の基礎)
- 豊かな言葉表現を身につける。(知・技の基礎)
- 経験したこと・感じたこと、考えたことなどを表す。(思・判・技の基礎)

伝え合い
認め合う子

○自分と異なる考えに気づき互に

有する
(知・技の基礎)

考え直したりする。(思・判・表)

○友だちと考え、共有し、共通の目標に向かい、

組む(字・人)

取り組む子

○考える、下志
する、試す、工夫
するなどする(思

○自分のやりたいことをあきら

○新しい考えを

味わいながら自
分の考えをより

(学·人)

5. 幼保こ小合同研修会

参観シート 園・校名() 名前()

参観する際お願い

- *できるだけ姿勢を低くして、参観してください。
- *子どもには話しかけず、話しかけられた場合のみ応じてください。
- *写真撮影はご遠慮ください。

【参観シートについて】

*子どもの様子、保育者の援助、環境の構成などをよく見て、付箋に記入してください。

- 例のように、横向き、横書きで書く
- 1つの項目を1枚の付箋に記入
- カードの下部に所属と名前を記入

*このシートは、参観後の研修会でも使います。記入後、忘れずにお持ちください。

◎黄色のカード⇒子どもの姿

主体的、よいなあ、夢中になっているなあ、
おもしろいなあなど感じた子どもの姿

【例】
「小学校みたいや」と場を教室に見立て、
学校で見つけたものや自分でイメージした
ものを工夫してつくっていく姿

大分県幼児教育センター 武津

◎ピンクのカード⇒保育者の環境の構成や援助

よいなあ、この環境の構成や援助が子どもの
姿につながったのでは?と思うことを記
入

【例】
体験入学の後、子どもたちの感想や思い
を出し合う場を設け、就学を楽しみにする
気持ちを共有したことが、「学校ごっこ」
(遊び・活動)につながった。

大分県幼児教育センター 武津



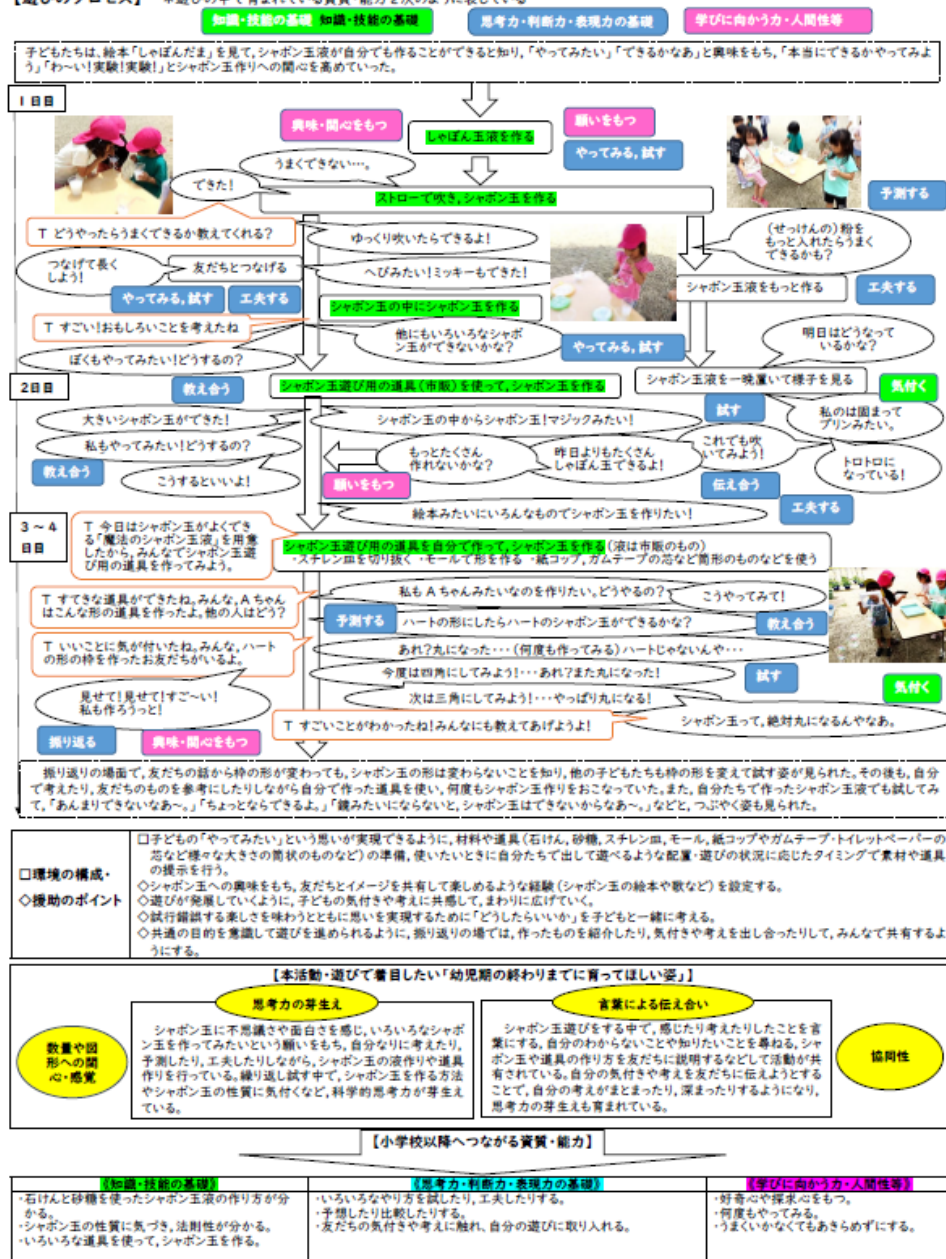
6. 遊び（学び）のプロセス

遊びのプロセス 幼2 竹田市立南部幼稚園 6月中旬(6月15日～20日)「シャボン玉あそび」

【ねらい】自分なりに考えたり、気づいたことを友だちと伝え合ったりしながら、試行錯誤して遊ぶことを楽しむ。

【内容】友だちと一緒に、シャボン玉液作りや、シャボン玉遊び用の道具作りをして楽しむ。

【遊びのプロセス】 ※遊びの中で育まれている資質・能力を次のように表している



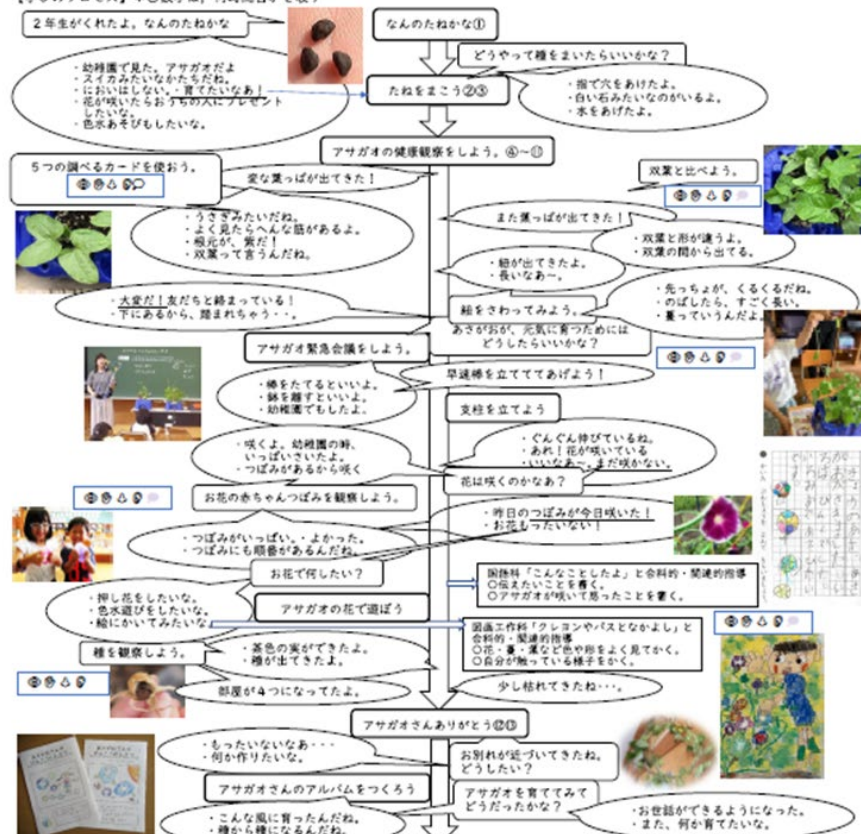
6. 遊び（学び）のプロセス

学びのプロセス～小②～

竹田市立南部小学校 1年生 5～8月 単元名「きれいにさいてね わたしのはな」（13時間）

単元目標	アサガオを育てる活動を通して、植物が育つ場所、植物の文化や成長の様子に心をもち、観察の仕方、観察の記録に合った世話の仕方、植物が自分と同じように生命をもっていることや成長していることに気づき、植物の成長を大切にすることが出来る。
内容	身近な人々・社会及び自然にかかわる活動に関する内容（7）「動植物の飼育・栽培」 自分自身の生活や成長に関する内容（8）生活や出来事との伝え合い
幼児教育からのつながり	自然との関わり・生命尊重 言葉による伝え合い 自立心 思考力の芽生え

【学びのプロセス】※○数字は、何時間目かを表す



アサガオに名前を付けた時から、小さな友達のようにお世話を始めた。毎日水をやりながら、予定表を使って生長を喜んで、健康観察で見つけた葉や葉、つばみなどの成長や様子を確認したりしていた。なによりも、最後まで大切に育てている様子が現れた。

指導上の留意点	○子どもの気持から課題を設定 →子どもの困りや不安感を課題にすることで、主体的に予想したり問題解決をしたりしていく →その後の観察に生かす（例：C「つばみにも色々ある。」で「どれが1番に咲きそう？」C「アイスクリームの上の部分が腐っていているよ」 「色が少しづつ出てきているからこの観察！」、次の日C「これ、もう咲くと思うよ！ソフトクリームだもん！」など） ○子どものゴールイメージから図工「アサガオの絵をかこう」や国語「こんなことしたよ（作文）」など合科的・関連的指導を展開する。 ○鑑賞や家庭で育てた経験思い出させる時間を設ける。 ○授業時間だけでなく、遊び込めるように色水遊び等を休み時間でもできるように準備しておく。（自由遊びのイメージ）
---------	---

本単元を通して育つ資質・能力	《知識・技能》 アサガオを育てる活動を通して、植物が育つ場所、植物の文化や成長の様子に心をもち、観察の仕方、観察の記録に合った世話の仕方、植物が自分と同じように生命をもっていることや成長していることに気づき、植物の成長を大切にすることが出来る。	《思考力・判断力・表現力等》 アサガオを育てる活動を通して、植物が育つ場所、植物の文化や成長の様子に心をもち、観察の仕方、観察の記録に合った世話の仕方、植物が自分と同じように生命をもっていることや成長していることに気づき、植物の成長を大切にすることが出来る。	《学びに向かう力・人間性等》 アサガオを育てる活動を通して、植物が育つ場所、植物の文化や成長の様子に心をもち、観察の仕方、観察の記録に合った世話の仕方、植物が自分と同じように生命をもっていることや成長していることに気づき、植物の成長を大切にすることが出来る。	今後の学習とのつながり ○2年生 生活科 「めざせ野菜作り名人」 ○3年生以降 理科 ＜植物の栽培＞
----------------	---	--	--	--

7. 幼小連携・交流活動

7. 幼小連携・交流活動

R6年度 幼小連携 全体計画

【ねらい】

- ◎園と小学校との連携を深めることにより、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図る。
- 園児と小学生が交流活動を通して、互いに親しみをもつとともに、次のような姿が見られるようにことを期待する。
 - ・園児は小学校への期待や憧れの気持ちをもったり、自分たちの遊びにいかしたりする。
 - ・小学生は園児への思いやりの気持ちをもったり、相手のことを考えながら自分の力を発揮したりする。
- 園と小学校の教職員間で、保育参観や授業参観、合同の研修会等をもつことにより、子どもの実態や指導のあり方など互いの教育についての理解を深め、教育活動の改善・充実を図る。

【年間活動計画】

月	交流内容【交流児】	研修計画【教職員】
4月	お見知り遠足 【5年生と幼稚園児】	
5月	交流活動 【1年生と幼稚園児】	第1回幼小合同研修(全教職員) (架け橋プログラムの意義・カリキュラム確認) 交流活動計画・ふり返り(幼・小1担任間)
6月		第1回 互見保育・互見授業 中学校校区ブロック別研修①
7月	交流活動 【1年生と幼稚園児】	交流活動計画・ふり返り(幼・小1担任間)
8月		
9月	運動会合同練習【全校児童】 幼小合同運動会【全校児童】	
10月		第2回幼小合同研修(全教職員) (互見保育・互見授業ふり返り・2学期以降の計画)
11月	交流活動 【1年生と幼稚園児】	交流活動計画・ふり返り(幼・小1担任間) 第2回 互見保育・互見授業 中学校校区ブロック別研修②
12月	交流活動 【5年生と幼稚園児】	交流活動計画・ふり返り(幼・小5担任間)
1月	交流活動 【1年生と幼稚園児】	交流活動計画・ふり返り(幼・小1担任間)
2月	入学説明会 【5年生と入学予定児】	第3回幼小合同研修会(全教職員) (架け橋カリキュラム検証、交流活動まとめ)
3月		子ども理解の会(全教職員)

R6年度 南部幼小交流活動年間計画

幼稚園のねらい	交流する中で小学生に親しみを持ち、一緒に活動することを楽しむ。
小学校のねらい	交流する中で園児に親しみを持ち、一緒に活動することができる。

月	交流内容【交流児】	幼稚園のねらい	小学校のねらい
4月	お見知り遠足 【5年生と幼稚園児】	小学生とゲームをして遊んだり、5年生と一緒に手をつないで遠足に行ったりすることを通して、小学生に親しみを感じる。	幼稚園児の自己紹介を聞いたり一緒に遊ぶ、一緒に手をつないで遠足に行ったりすることを通して、園児に親しみをもつことができる。
5月	よろしくねの会 【1年生と幼稚園児】	1年生や1年生の先生を知り、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。	近くにいる幼稚園児を意識して遊んだりかわたりすることができる。
7月	みんなで七夕飾りをつくろう 【1年生と幼稚園児】	自分で考えたり、小学生と一緒に作ったりすることを楽しみ、きれいな七夕飾りができたことへの達成感を感じる。	一緒に七夕飾りを作って飾ることを通して、共に作ったという達成感を味わうことができる。
9月	運動会合同練習 【全校児童・幼稚園児】 幼小合同運動会 【全校児童・幼稚園児】	小学生と一緒に応援合戦をしたり、互いの競技を応援しあったりすること、小学生に憧れを持ち、意欲的に取り組もうとする。	幼稚園児と応援合戦をしたり、競技を見たり応援したりすること、頑張りを認め合うことができる。
11月	秋祭りをしよう 【1年生と幼稚園児】	1年生の作った遊具で遊ぶ楽しさを味わい、秋の自然物でいろいろな遊びができることに気づく。	秋見つけで集めた材料を使った遊び道具を使って、一緒に遊んだり遊びを工夫したりする。
12月	お楽しみ会をしよう 【5年生と幼稚園児】	5年生と遊んだり話したりすることを通して、親しみや憧れの気持ちをもつ。	幼稚園児と遊んだり話したりすることを通して、関わりを深め思いやりの気持ちをもつことができる。
1月	凧をつくってあそぼう 【1年生と幼稚園児】	自分で考えたり、互いに手伝ったりして凧を作り、凧が空に上がったことへの達成感を感じる。	グループでお互いに手伝ったり、話し合ったりしながら凧を作り、凧を飛ばすことができる。
2月	学校って どんなところ？ 【5年生と入学予定児】	5年生と一緒に遊んだり、学校探検をしたりすることで、小学生になることへの期待や小学校生活への意欲を高める。	入学予定児と一緒に遊んだり、学校探検をしたりすることで、最高学年としての意識や来年度への意欲をもつことができる。

＜留意事項＞

- *事前事後の打ち合わせを行い、ねらいの確認や振り返り等を行うことで次の交流にいかす。
- *特別な配慮を必要とする子どもへの適切な支援について共通理解を図る。

7. 幼小連携・交流活動

事後の話し合いをもち、
次の活動へつなげられるようにする

どんな子どもの姿が見られたか

子どもの姿から見取る①
「育てたい姿は見られたか？」

写真や動画を
手がかりに

活動名	「風をつくってあそぼう！」	1月26日(木)
ねらい	共通 ①一緒に活動することに意欲を持ち、風つくりや風あげを楽しむ。	
	幼稚園児 ②交流する中で1年生に親しみをもち、一緒に活動することを楽しむ。	
	1年生 ③交流する中で幼稚園児に親しみをもち、一緒に活動することを楽しむ。	
教育課程上のつながり	幼稚園児 【1学期(1～5月)の内容】…日本の伝統文化に親しみ、生活の中に取り入れて遊ぶ…目的に向かって取り組む活動(1月):「風作り」(お正月あそび)	
	1年生 【生活科】:『きせつと なかよし ふゆ』…『きたかぜと あそぼう』(1～2月)	
この活動で育てたい姿	幼稚園児 ●自分なりに考えたり、友だちや1年生とやり方を教え合ったりしながら、風作りと風あげを楽しむ。 ●「風あげをして遊ぶ」という共通の目的をもち、気づいたことを伝え合ったり、一緒に作ったりしながら、友だちや1年生とのかかわりを楽しむ。 ●友だちや1年生と一緒に遊ぶ中で、思ったことや気づいたことを自分なりの言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりする楽しさを味わう。	
	1年生 ●風の動きを予想したり、確かめたり、見直したりしながら、風を粘り強く作ったり遊んだりする。 ●「一緒に風であそぶ」というめあてをもち、幼稚園児の様子を気にかけてながら作り方を教えたり手伝ったりする。 ●作ったり遊んだりする中で、思ったことや気づいたことを友だちや幼稚園児に伝えたり、話を聞いたりする。	

子どもの姿から見取る②
「ねらいはどうだったか？」

改善点や今後どうするか

「風をつくってあそぼう！」

事後の話し合い【振り返りと今後に向けて】

子どもの姿	園児	○1年生の姿を見たり、友だち同士で作り方を話したりしながら、自分なりに何とかして作ろうとする姿が見られた。 ○セロハンテープを交代で切ったり、貼る時に押さえてあげたりして、1年生や友だちと協力して作る姿が見られた。 ○昨年と違って、見本を見ながら作るのではなく、友だちと話し合って作る姿が多かった。 ○風の形を見て向きを考えたり、竹ひごやセロハンテープの数を数えて確認したりしながら作る姿が見られた。 ○風あげの時に、グラウンドは泥が跳ねるので、コンクリートのところでやってみるなど、自分たちなりに考えて遊んでいた。 ○風が吹いてきたことを伝えるなど、1年生や園児同士で声をかけあって風あげを楽しんでいた。 ○約束を守って風あげをしていたので、上手にあげている子どもが多かった。また、風系が絡まってしまう姿が昨年よりも少なかった。
	1年生	○「先生ここ結べないのて教えてください」と自分から頼んだり、自分で結ぼうとしたりする姿が見られた。 ○1年生に穴の開け場所を教える園児の姿を見て、「幼稚園生のほうがすごいね」と感心していた。 ○「私の隣に座ってね」と同じ班にきた園児に声をかけて隣に座らせて、作業の途中途中に園児に目をやっていた。 ○園児のそばに寄り添い、「ひごをもってあげようか」と声をかけて持ってあげていた。 ○ひごをつけたときのテープの数が合っているかなど「1、2、3、4、5」と一緒に数えて確かめていた。
子どもの姿から見取ったこと	園児	☆主として見られた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 …『自立心』『言葉による伝え合い』『思考力の芽生え』『社会生活とのかかわり』 『数量・図形、標識や文字などへの関心・感覚』 ○【知識・技能の基礎】 …保育者の話をよく聞いたり、1年生や友だちの姿を見たりすることで、風の作り方やあげ方が分かり、自分なりにやってみる姿が見られた。 ○【思考力・判断力・表現力の基礎】…自分で考えるだけでなく、1年生や友だちと話し合ったり、教え合ったりしながら楽しんでいた。 ○【学びに向かう力・人間性等】…どの子も風つくりや風あげに興味をもち、意欲的に遊んでいた。
	1年生	☆幼児教育からつながる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 …『自立心』『言葉による伝え合い』『社会生活とのかかわり』 ○【知識・技能】…風が吹いてくると「いまだ！」と駆け出す子がいた。風と風の関係に気付いていた。また、風が吹くところがあがる場所を見て、「なんにもしくなくてもあがるんだよ」と話して楽しんでいた。 ○【思考力・判断力・表現力】…困ったときには、「教えてください」と言いきたり、園児の様子を見ながら作ってみたい粘り強く風を作る姿が見られた。園児の様子を見ながら、手を貸すことができた。 ○【学びに向かう力・人間性等】…最後に風を飛ばすことを楽しみにして、最後まで風を意欲的に作り出した。
「ねらい」について	園児	○交流も4回目になり、振り返りでは「小学生の〇〇くんが教えてくれてうれしかった！」と具体的に1年生の名前を出す姿が見られ、かかわりが深まってきたことが伺える。 ○さよならをする時に小学生が「待ってるよ！」と言ってくれたことが嬉しくて、「はやく1年生になりたい！」と就学に期待をもつ姿が見られた。
	1年生	○すぐそばにいる園児のことを気にかける子が多かった。全体の園児から個人の園児に目がいくようになり積極的なかかわりができていた。
今後に向けて	幼稚園	○各グループに置いている見本も、テープの位置が分かるように色を変えておくとい、(→来年度に向け修正済み) ○風ひごの位置はかなりずれていてもあがるのが分かったので、子どもの主体性を大切にして援助をしていきたい。
	小学校	○風の見本をよく見ることを事前に伝えておく。教師に頼ることもあったので、もう少し見本を参考にできるよう意識させたい。
	幼稚園 小学校	○来年度も、年4回の交流(5月、6月、10～11月、1月)で行いたい。 ○次年度の計画が他の方にも伝わるように教育課程に掲載できるようにしておく。

8. 家庭・地域との連携

幼小「学びのつながり」シート

(～竹田市立南部幼稚園 令和5年度の子どもの姿より～)

令和6年5月発行

*毎年発行、保護者会で配付、小学校や地域の幼児教育施設と共有

幼児教育では、遊びを通して小学校以降につながる3つの資質・能力(「知識及び技能の基礎」・「思考力、判断力、表現力等の基礎」・「学びに向かう力、人間性等」)を育むことが求められています。この資質・能力が育まれると、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(「10の姿」)…①健康な心と体／②自立心／③協同性／④道徳性・規範意識の芽生え／⑤社会生活との関わり／⑥思考力の芽生え／⑦自然との関わり・生命尊重／⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚／⑨言葉による伝え合い／⑩豊かな感性と表現)が見られるようになります。南部幼稚園では、次のような教育活動を展開し、遊びを通して学びを小学校での生活や学習へとつなげています。

①「健康な心と体」



「忍者ごっこ」(5月)
友だちと一緒に固定道具などに挑戦する中で、自分なりに遊び方を考えたり友だちの姿に刺激を受けたりし、道具の使い方に注意しながら身体を動かすことを楽しみます。

「小学校では…」
見通しや自分なりのめあてをもって生活や学習をする力につながります。

②「自立心」



「チャレンジあそび」(一年中)
友だち同士でコツを教え合いながら、ホッピングやフラフープ、なわとび、こま回しなどにくり返し挑戦します。上達して自信をつけ、自分たちで新しい遊び方も考えて楽しみます。

「小学校では…」
自信をもって活動し、学習に粘り強く取り組む力につながります。

③「協同性」



「カエルごっこ」(6月)
クラスみんなでカエルになりきって遊ぶ中でイメージや願いを共有し、互いに考えを出し合い、工夫したり協力したりして楽しみます。(令和5年度はカエルのお家づくりからお店屋さんごっこにまで発展していきしました。)

「小学校では…」
学級での集団活動の中で、共通の目的に向かって友だちと協力し学び合う姿につながります。

④「道徳性・規範意識の芽生え」



「運動会ごっこ」(9月～10月)
幼小合同運動会の経験をもとに、クラスみんなで相談してやりたい競技を決めます。友だちと協力して遊びをすすめる中で、きまりの必要性に気づき、自分たちでルールを作り、守りながらゲーム遊びを楽しみます。

「小学校では…」
相手の事も考えて自分の気持ちや行動を調整し、学校生活を楽しく過ごすことにつながります。

⑤「社会生活との関わり」



「秋のお店屋さんごっこ」(11月)
クラスみんなでやりたいお店を相談し、秋の自然物を使って商品や看板など必要なものを作ります。そして、本物のお店屋さんの様子を自分たちなりに再現しながら、お店屋さんとお客さんになって、やりとりを楽しみます。

「小学校では…」
自分が関心を持った情報を積極的に取り入れ、学びを深めることにつながります。

⑥「思考力の芽生え」



「シャボン玉あそび」(6月)
自分なりに考えたり、予測したり、工夫したり、友だちの考えを取り入れたりしながらシャボン玉液作りやシャボン玉あそび用の道具作りを行い、くり返し試して楽しみます。

「小学校では…」
探求心をもって考えたり試したりすることで、主体的に問題を解決しようとする態度につながります。

⑦「自然との関わり・生命尊重」



「朝顔の栽培」(5月～7月)
5月に種をまきます。毎日水やりをする中で、気づいたことを友だちと伝え合い共感しながら朝顔の生長を楽しみます。7月になると、きれいな花が咲き、しぼんだ花を使って色水遊びも楽しみます。

「小学校では…」
自然物への理解や知識が確かなものになり、命を大切にしようとする態度につながります。

⑧「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」



「お正月あそび」(1月～2月)
友だちと考えを出し合い、一緒にすごろくやカルタを作って遊ぶことで、文字や数字に親しみます。そして、楽しく遊ぶ中で、文字や数字の必要性に気づき、興味を持つようになります。

「小学校では…」
学習に関心をもって取り組み、実感を伴った理解や、学んだことを日常生活の中で活用する態度につながります。

⑨「言葉による伝え合い」



「振り返り」(毎日)
遊びの中で楽しかったことや困ったことを自分なりの言葉で伝え合い、クラスみんなで思いを共有することで、新しい内容を取り入れたり、きまりを作ったりして、遊びをより発展させて楽しむ(あそび込む)ことが出来るようにしています。

「小学校では…」
友だちと互いの考えを伝え合い、受け止めたり認め合ったりしながら学びを深めることにつながります。

⑩「豊かな感性と表現」



「表現あそび」(11月～12月)
劇のセリフや動き、リズムの隊形やポーズなど、自分たちで考えを出し合い、友だちと一緒に創りあげていくことを楽しみます。12月の発表会では、表現あそびをお家の人もに観てもらい、さらに達成感を味わいます。

「小学校では…」
音楽や造形、身体を使った学習など、感性を働かせ、表現することを楽しむ活動につながります。

おわりに カリキュラム開発委員の意見のまとめ

1. 取組の進展と課題

- 認識の変化：初年度はカリキュラム作成が主目的だったが、年度を重ねるごとに「子どもの学びの接続」が目的であるという共通認識が広まった。（小学校）
- 合同研修会の効果：多くの職員が参加する合同研修会が、認識の深化と持続可能な取組の基盤を築いた。（小学校）
- 持続的な運営：各校区での研修会運営が進む中、自律的な活動への移行が重要。（小学校）

2. カリキュラム開発の成果

- 資質・能力の共有：架け橋期に育てたい資質や能力が明確になり、幼児教育と小学校教育の連携が深まった。（小学校）
- 「遊びを通した学び」の意識浸透：幼児教育の視点を理解し、小学校教員の指導意識が変容。（小学校）
- 継続の課題：事業が終了後も持続的に浸透させるため、交流会や連絡会の充実が必要。（保育所）

おわりに カリキュラム開発委員の意見のまとめ

3. 幼児教育と小学校教育の連携

○幼児の力の理解促進：小学校教員に対し、幼児の持つ力を知ってもらうことが重要。

（保育所）

○生活習慣の重要性：基本的な生活習慣の定着が、学びの土台となる。（幼稚園）

○医学的知見の活用：乳幼児期からの運動プログラムが、バランス能力向上に寄与。

（医療関係者）

4. 多職種協働の重要性

○専門家と現場の連携：保育・教育現場の協力が、取組成功の要因となっている。

（作業療法士）

○架け橋期カリキュラムの意義：園と小学校の協働により、継続的な学びの接続が可能。

（架け橋期コーディネーター）

○障がい児支援の必要性：障がいの有無に関わらず、切れ目のない支援の継続が不可欠。

（市こども家庭センター）

おわりに カリキュラム開発委員の意見のまとめ

5. 今後の方向性

- 全市的な取り組み拡大：竹田市全体の園・学校に展開し、自治体の目指す子ども像の共有が求められる。（大学教授）
- 保護者の理解と協力：取組の意義が徐々に伝わりつつあるが、家庭環境に応じた情報発信の工夫が必要。（保護者）
- 小学校教員の負担軽減：幼保小の協力により、小学校1年生担任の負担軽減が期待される。（保護者）

6. 3年前の課題に照らして

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が保育参観や授業参観をする際の視点となることで、連携の手がかりとして機能し始めた。
- 全員参加のアンケートから「竹田市の期待する子ども像」を策定し、さらに、カリキュラムの南部幼小モデルとつなげたことで、幼小接続の方向性が確立されてきた。
- 合同研修会を重ねるごとに内容の理解が図られ、小学校区単位での合同研修会が実施することができてきた。

4年目

たけたんスマイルブリッジプロジェクト「たけスマブリプロ」

持続的な展開に向けて

- 幼小連携担当による合同研修会の日程調整（4月）
- スタートカリキュラムの検証（1年部会）（5月）
- 合同研修会①（授業参観＋協議＋研修）（5～6月）
 - A：竹田小・豊岡小・城原小・竹田幼・しらゆり幼・竹田保・小羊保
 - B：南部小・祖峰小・南部幼・玉来保
 - C：荻小・荻げんきこども園
 - D：久住小・白丹小・久住保
 - E：都野小・都野保
 - F：直入小・なおいりこども園
- モデル校、モデル園による授業公開研究会
- 合同研修会②（保育参観＋協議＋研修）（8～11月）
- 作業療法士による体づくりの取組「あそびの森Taketan Play Forest」：全園・全校
- 地域保護者への啓発
- 幼保連携の推進：竹田市幼児教育アドバイザーによる訪問支援
(竹田保×竹田幼、南部幼×玉来保、なおいりこども園×都野保)